

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071300406		
法人名	特定医療法人 弘医会		
事業所名	グループホーム とりかい	ユニット名	1階
所在地	福岡県福岡市城南区鳥飼6丁目7-14		
自己評価作成日	平成26年11月14日	評価結果市町村受理日	平成27年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	平成26年12月16日	評価確定日	平成27年1月5日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が病院である事を活かし、体調悪化した際はすぐに対応できる環境にある。また、管理栄養士が管理しバランスの取れた食事を提供できる。グループホーム、小規模多機能、訪問看護ステーションが併設、連携している事により地域に密着したサービスを提供出来ている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームとりかい”では、管理者や計画作成担当者等を中心に職員同士のチームワークが良く、「入居者本位」と言う視点を大切に個別支援が行われている。日々の生活ではリハビリに取り組み、生け花や編み物など、入居者個々のお力を発揮して頂いている。季節や月日が理解できるように季節行事も取り入れ、季節に応じて入居者の方々が栗を剥き、栗ごはんを楽しまれたり、畑で収穫した芋ツルの皮剥きや干し柿作りも恒例で、畑で収穫できた紫芋で芋羊羹を作り、家族会で美味しく食べる事ができた。看護師である所長に24時間連絡が取れ、母体病院や系列施設との連携もあり、職員や家族の安心になっている。今後も職員個々のアイデアを活かし、入居者皆さまの笑顔を引き出していく予定である。

# 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室に理念を掲示し、いつも心掛けて業務に入れるように努めている	”笑顔(笑顔が絶えない)・安らぎ(安らぎのある生活)・交流(人、地域との交流を大切に)”という理念を大切に、常に入居者の思いを考え、自立支援の視点で日々のケアに取り組まれている。入居後に笑顔が増えた方もおられ、家族も喜んで下さっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	校区の敬老会に参加、近隣の公園へ散歩に行った時の地域の方との出来る範囲で地域との交流を行っている	管理者が小学校のPTA役員を経験しており、入居者も下校時の旗振りを行った。地域行事や校区の敬老会、夏祭りに参加し、荒江保育園に力士が来られた時も一緒に楽しむ事ができた。どんたく隊や絵画ボランティアの方、中学生もホームに来て下さり、交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民と交流を図る際、グループホームとはどんなところかなど説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月のレクリエーション活動や日常の様子を写真を通して報告し、又、インシデント、事故の報告を行い参加者の意見を聞き反映できるように努めている	外部評価結果も報告し、労いの言葉を頂いた。インシデント・アクシデント報告も行われ、参加者に全てを報告する姿勢を大切にしている。地域包括の方からも「悪徳商法」「認知症の取り組み」等の情報提供が行われ、参加者の方々も勉強になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	協議会などを通して行政との連絡会に参加や運営推進会議に参加頂き意見や情報交換をしている。	更新申請等は管理者が区役所に出向いており、ホーム便りも持参している。保護課の担当者との情報交換し、オムツ給付等のアドバイスも頂いている。福岡市からの各種調査依頼にも回答している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し、また、研修会参加し、伝達講習、勉強会を通して職員全体で意識を高めケアに取り組んでいる	入居者の重度化もあり、転倒リスクが増えている。「身体拘束ゼロ」を目指しているが、主治医とも話し合い、転倒予防のためにベッドの四方を囲む対策が取られた。拘束3要件に該当するかの確認も行われ、家族にも代替え案を提示し、身体拘束廃止に繋げる事ができた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会参加し、伝達講習、勉強会を通して職員全体で意識を高めケアに取り組んでいる		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されている方がいるため学ぶ機会がある。	職員は制度に関する研修に参加し、伝達研修もしている。制度のパンフレットを備え付け、入居時に家族等に説明している。管理者が制度の必要性を検討しており、制度を利用している方もおられる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所の契約時には契約書や重要事項を説明し家族、利用者の不安や疑問点に納得していただけるよう十分に説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や希望等は日常生活の中で聞き取り、家族は面会時に聞き取っている。又、状態に変化があった際は電話等で説明、確認している。	家族の面会時に近況報告し、家族会でも家族の心配事や要望を伺っている。入居者からも「放生会に行きたい」「バラ園でバラを見たい」等の要望が聞かれ、実現する事ができた。リビングの窓際に座る方が「寒い」と言う事で、保温対策が取られた。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各カンファレンスや業務を通してそれ以外でも随時職員の意見を聞き取り必要であれば反映するようにしている。	管理者やケアマネの方々は、職員の意見を大切にしている。勉強会や行事の意見も受容し、「それは良いアイデア」「勉強になった」等と褒めながら、日々の業務に活かしている。自己目標管理シートと個人面談で研修希望を伺い、「認知症」「尊厳死」等の研修にも参加できている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望の研修を確認しその希望に沿った研修に参加できるようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては性別、年齢の制限はしていない。	採用時は入居者への優しさや言動等を大切にしている。管理者は「適材適所で大丈夫です」と職員に伝えており、職員の得意な事(家事や絵が上手、歌を覚えるのが早い等)を発揮して頂いている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設での勉強会の参加や日々利用者一人ひとりの尊厳や生活環境に配慮するように話をしている。	法人全体の朝礼が毎月あり、運営者は「入居者本位」という視点を職員に伝えている。管理者も職員に「馴れ馴れしく話さないように」「ご本人の立場に立って」という事を伝えると共に、職員の頑張りや日々の取り組みを褒める機会も多い。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加を促し、ケアの向上に繋がる様、研修後職員全体へ伝達してもらっている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や協議会を通じて情報交換を行っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に入居前にできるだけ見学して頂き居室、浴室、トイレ、談話室等説明し不安なこと要望を聞き安心して生活できるよう努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に見学して頂き、不安な事、どんな生活を送ってほしい等、聞き取り、その情報を活かしながら関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の意向を元にそれに沿ったケアができるように職員間で情報を共有している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人一人との日々の生活を共にしながら食事の準備、掃除、洗濯物など出来る事を一緒にしたり得意な事を教わったり共に支えあう関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回、入居者一人一人のご家族に生活状況表を送付し、又、面会時も細かな情報を伝え家族との関係を大切にしながら共に支えあう関係を築いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前より行かれていた美容室への外出援助や友人が訪問した際に居室でゆっくり話せるようにお茶を出をだしてなじみの関係が途切れないよう援助している。	自宅周辺を散歩し、馴染みの方との交流が持てるようにしており、病院の待合室や美容院、地区の敬老会等で知り合いの方とお会いする機会もある。知人等が来訪された時は一緒に写真を取り、“思い出”の写真を渡している。家族とお墓参りに行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入りスムーズに会話できるように援助している。また、新聞やテレビなど通して昔話を交えて会話できるように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	規約が終了しても外部でお会いした場合は、近況を伺い、又、入院先にお見舞いしたりしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人がはっきりと希望を言える場合も多いがかかわりの中で気付いたり、ケアプランの更新の際に聞く機会を設けている。また、困難な際は些細な事にも耳を傾けその人の立場に立って検討している。	テレビを見ながら「ラーメンを食べたい」と言う要望が聞かれる時もあり、レク担当が企画するようにしている。意思疎通が難しい方は、表情や行動から思いを察するようにしており、ご本人の立場で検討している。生活歴を把握し、和裁や編み物、生け花等を継続できるように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活ぶりや生活歴を本人、家族より聞き把握に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態を観察、記録し把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	三ヶ月ごとの見直しや状況変化時にカンファレンスを行い状況に即したケアプランを作成している。	日常生活の活動をケアチェック表に記入している。担当職員を中心に計画を検討し、計画作成担当者や他の職員と話し合い、医師、看護師、PT、OTからのアドバイスも頂いている。歩行訓練や拘縮予防訓練等と共に、具体的なサービス内容も盛り込まれている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容、結果、工夫を個別に記録している。また、申し送りノート等で情報を共有しケアプランに共有できるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良の際はすぐに協力病院へ受診できるようにしている。又、出来るだけニーズに対応できるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への繋がりを保つ為、行きつけの美容室や近隣公園へ外出の際は交流を図るようにしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同一法人の協力病院へ24時間受診可能な体制をとっている。又、主治医とも情報共有を行っている。	主治医から食事やリハビリ等の指導を頂き、歯科医師の往診も受けている。体調が変化した時は、所長(看護師)に24時間連絡を取る事ができ、月2回の訪問看護も利用している。家族と受診結果を共有し、受診時に同席して頂く機会も作られている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態変化した際は同敷地内の訪問看護師へすぐに連絡できるように体制を整えている。又、月に2回訪問看護師が訪問し相談や看護を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は正確な情報の共有に努めている。又、主治医などと早期の退院に向けて相談、検討するようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に説明を行い、状態悪化した際は家族、本人、主治医と話をしている。又、遠方の方には面会時に今後について聞いている。	協力医療機関が隣接している事が安心で、入居を希望される方も多い。希望があれば、ホームでの看取りができる事も伝えている。「最期までホームで」と希望する方もおられ、転院ギリギリまで誠心誠意のケアが行われた。入院中は職員がお見舞いに行き、ご本人の不安を和らげるように努めている。	入居時などに「重度化・終末期の同意書」も頂いているが、今後も意向確認を行っていく予定である。ご本人の思いや真の願い(夢など)も慎重に把握すると共に、家族と情報共有し、今後の対応策の検討を一緒に行っていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行い利用者の緊急時に備えている。また、どの様にしたら良いかなど体制を整えている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練、消化器具の点検を行い災害時に備えている。	併設の小規模多機能事業所と夜間想定訓練が行われ、新任職員は必ず参加している。年々避難誘導時間が短くなっており、消防署の方からもアドバイスを頂いている。母体病院や系列施設の緊急連絡網があり、食料や飲料水等も準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人にあつた対応を心掛けてプライバシーに配慮した対応を心掛けている。	職員は言葉遣いに気を付けており、馴れ合いの言葉が聞かれた時は管理者等が注意している。排泄や入浴時は同性介助を心がけているが、夜勤時に異性介助になる時は、羞恥心に十分に配慮した支援をしている。個人情報の管理も周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒に話す機会を作り、出来るだけ本人の希望を自己決定できるように心掛けている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、体調の悪い方は居室にてゆっくり休んでいただけるように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて入居者と職員と一緒に衣替えをしたり出来るだけ本人の希望に沿うように支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれ出来る事を判断し食事の準備、片付け等を行っている。毎週おかず作りの日を決め季節のもの、利用者が好まれるものを一緒に作っている。	同法人の老健施設で調理し、栄養バランスに配慮した料理が作られている。入居者と料理を受け取りに行き、配膳も手伝って下さる。週1回はホームで手作りし、畑で収穫した大葉やさつま芋、キュウリ等を使い、包丁で食材を切ったり、玉ねぎの皮むき等もして頂いている。	義歯を使用していない方もおられ、刻み食やお茶ゼリー等も提供している。今後は口腔機能検査を全員に行い、ソフト食などを含めて食事形態の検討を続けていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人食べやすいように工夫したり量の調節等を行っている。主食を残す方にはふりかけ等好まれるものを支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後自立されている方には、声掛けを行い、介助の必要な方には職員がケアを行っている。また、毎週訪問歯科の往診を受けマウスケアや口腔内のケアの相談を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し一人ひとりの排泄パターンを把握し定期的な声掛けを行っている。また、日々の排泄の状況からパットの必要性などを職員間で情報交換を行っている。	入居者個々に排泄サインが異なり、職員は個々のサインを丁寧に把握するように努めている。トイレでの排泄を心がけ、布の下着(パット)を着用する方もおられる。昼間の失禁が減った方はパットを中止し、布の下着に変更できた方もおられる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナやゴボウ茶などの摂取や水分強化をし便秘の予防に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本的に週二回は入浴できるようにしている。又、失禁等でシャワー浴が必要な場合はその日以外でも実施している。	お風呂好きな方が多く、週3回入浴する方もおられる。菖蒲湯や柚子湯も行われ、職員との会話を楽しまれている。体調に応じて2人介助も行われ、背もたれ付きのシャワーチェアも活用している。脱衣所の段差対策のために軽量の車いすを購入し、安全に入浴できるようにしている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調の優れない方は臥床時間をつくったりし支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の勉強会などを通して職員一人ひとりが理解できるようにしている。また、お薬手帳や薬ファイル作成し効能がすぐ分かるようにしている。状態の変化があれば主治医に報告し、薬に関して疑問点があれば薬剤師に相談している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴等を元に趣味を活かした活動ができるように支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への買い物や散歩等一人ひとりの状況に応じて対応している。	近くの公園でお花見等を楽しまれたり、糟屋町の駕与丁公園でバラ園を散策し、お弁当を食べる機会も作られた。福岡ドームの飾り山傘の見学や千石の郷でのバイキング、油山や百道へのドライブに行かれたり、夢タウン博多や木の葉モール橋本での買い物や食事を楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本的に家族が行う。ホームではお小遣い程度の管理を行っている。希望があれば買い物等を行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話や手紙など支援できる体制をとっている。また、居室に電話回線を引いており利用している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に季節感のある飾りなどを掲示している。温度、湿度計の設置。	入居者が活かされた生け花が玄関に飾られている。1階の庭に四季折々のお花が咲き、リビングには季節毎の掲示物が飾られている。ユニット毎にリビングの広さや家具の配置が異なり、寛ろげる空間作りに努めている。今後も引き続き、2階の廊下の活用方法の検討を続けていく予定である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話室にソファを設置し気のあった利用者同士で過ごせるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や本人が書いた絵などを設置し居心地がいい環境造りに努めている。	自宅で使われていた鏡台やタンス等を持ち込まれ、ご本人手作りの刺繍の作品やぬいぐるみ等も飾られている。仏壇やお位牌等も置かれており、お仏飯や水等を供えている。濡れタオルを窓際に干し、加湿に努めている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立歩行が出来るように手すりを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない